

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立相知中学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権・同和教育の充実を図り、職員・生徒の人権意識を高め、共感的理解をもって互いを尊重し合う風土を醸成したことで、学力向上の基礎となる学習集団としての成長が見られた。学校生活の充実感、保護者の安心感を向上させることができた。</li> <li>・ラーニングマウンテンを取り入れ、授業の繋がりを意識した単元づくりを進めることができた。生徒は、見通しをもって学習に取り組み、学習の成果や課題を自覚しながら次の学習に繋げることができた。</li> <li>・未来の自分をイメージし、日々の学校生活や様々な体験活動の中から今の自分に必要な課題を見つけ、自主的・実践的な解決に取り組もうとする生徒が増えた。</li> <li>・人権・同和教育の充実とともに、不登校対応、教育相談、特別支援教育に関する環境整備にも重点を置き、安定した学級集団づくりを目指しながら「個別最適な学び（指導の個別化・学習の個性化）」を推進し、学力の向上に繋げていきたい。</li> </ul>
------------------	--

2 学校教育目標	<p>「しなやかに・自分らしく・あなたらしく」</p> <p>【知】学びを楽しむ 【徳】夢・自尊尊重・感動 【体】元気ハツラツ</p>
----------	---

3 本年度の重点目標	<p>【いつも、人から】 ～「人を大切に」を理念に～</p> <p>①《自己肯定》：「出番」を与えて「役割」を果たさせ、その行動を「承認」する開発的生徒指導の推進 ②《生徒理解》：特別支援教育の視点による生徒対応、支援を要する生徒の早期発見・早期対応</p> <p>③《人権保護》：いじめや差別を見抜き許さない人権・同和教育の推進 ④《連携》：地域連携・小中連携・外部機関連携の強化による学力向上と生徒指導</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価	
重点取組			具体的取組	達成度（評価）	実施結果
評価項目	取組内容	成果指標（数値目標）			
●学力の向上	○校内研究を踏まえた授業改善	○校内研究を踏まえた学習集団づくりと授業改善に取り組んだ教員が90%以上	・職員が授業を参観し合い、意見交流を通して、ラーニングマウンテンを活用した単元づくりを推進し、全職員で授業公開を実施する。	A	・ラーニングマウンテンを活用した単元づくりに、全職員で取り組んだ。 ・全職員、唐津市学力向上研究会に係る授業公開を行った。 ・校内研究や校内研修を生かして、学習集団づくりや授業改善に取り組んだ教員は100%であった。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○特別の教科道徳や人権・同和教育に関する授業が自分を成長させるために役立っていると感じている生徒が90%以上	・学年団で協力して特別の教科道徳の授業づくり・実践を推進する。 ・人権学習や部落問題学習の授業を家庭・地域や他校に公開する。	A	・学年で道徳の授業づくりに取り組み、学年職員全員で授業を展開した。 ・人権学習や部落問題学習の授業を公開し、地域と協力しながら研修を深められた。 ・道徳や人権に関する授業は自分を成長させるために役立っていると感じている生徒は96%であった。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等（いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等）について組織的対応ができていると回答する教員が100%。	・年度当初にいじめの認知・覚知について共通認識を図る場を設ける。 ・生徒指導主事を中心に情報共有し、対応の協議を迅速に行う。	A	・年度当初の生徒指導協議会で、いじめの認知・覚知について全職員で確認した。 ・アンケートや教育相談等から、いじめやトラブルの早期発見につなげ、迅速な対応を行った。 ・いじめ防止対策や対応等について組織的対応ができていると回答する教員は100%であった。
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・生徒の日常を丁寧に観察し、褒められる言動を掲示して全校に紹介する。 ・自己理解を深め将来像をもたせるために、キャリア教育の視点をもって総合的な学習の時間を充実させる。	A	・「いいとこ情報交換会」で、生徒の日常から善いところを見つけて共有し、褒めたい生徒の言動を掲示して紹介した。 ・学校行事や総合的な学習の時間を充実させ、アンケートや振り返りを通して、自分を見つめなおし成長と課題を自覚させ、よりよい改善に取り組ませることができた。 ・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒は92%であった。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒は82%であった。
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成 ●安全に関する資質・能力の育成	○時間の使い方を改善している生徒80%以上 ○安全や身を守ることへの意識が高まった生徒80%以上	・時間や期限を意識させる指導を継続し、家庭でも時間の使い方に見通しをもたせることでタイムマネジメント力を向上させる。 ・講師招聘による安全・防災教室を年2回実施する。	A	・活動時間や提出期限を設定し、計画を立てたり振り返って改善したりして、見直しをもって取組むことを意識づける指導を継続した。 ・4月に交通安全教室、5月に防災教室を実施し、生徒の安全意識を向上させることができた。 ・時間の使い方を改善している生徒は87%であった。 ・安全や身を守ることへの意識が高まった生徒は90%であった。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・定時退勤日の設定 ・学校閉庁日の設定 ・部活動休養日の設定 ・年次休暇取得の推奨	B	・学校閉庁日や部活動休養日の取組みが定着し、タイムマネジメントへの意識が向上している。 ・年次休暇の取得は増加傾向にあるが、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上には届かず、不十分である。
●特別支援教育の充実	○生徒、保護者のニーズに応じた教育活動の展開	○特別支援学級の生徒、保護者の学校教育に対する満足度80%以上	・複数の特別支援教育コーディネーターの推進で、教職員・保護者の情報共有を密にしながら、生徒の成長を促す。 ・全職員で生徒理解に努め適切な支援を行うことで、個に応じた教育環境を充実させる。	B	・特別支援教育コーディネーターがチームを組むことで、情報の共有や業務の分担が効果的に行われ、生徒・保護者への対応がスムーズになった。 ・校内支援委員会や生徒指導協議会等で、支援体制について協議し、個に応じた環境づくりを推進することができた。 ・特別支援学級における教育活動や支援の満足度は、生徒が71%、保護者が100%であった。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目					
重点取組			具体的取組	達成度（評価）	最終評価 実施結果
評価項目	重点取組内容	成果指標（数値目標）			
◎志を高める教育	○ウェルビーイングの視点をもった教育活動の推進	○「自分や友達の良さを認め合い、互いの思いや考えが大切にされている」について肯定的な回答をした生徒80%以上	・校内研究や生徒指導を推進し、学ぶ喜び、人とつながる喜び、成長を感じる喜びを味わわせる教育活動を展開する。	A	・学校の教育活動全体で、生徒の「なりたい」「やってみたい」を支援し、意欲を引き出す雰囲気づくり(1.「使えた」実感や喜びを共有できる雰囲気、2. 自分の考えや意見を表現しやすい雰囲気、3. 自己肯定感を高め挑戦しやすくなる雰囲気)を推進した。 ・「自分や友達の良さを認め合い、互いの思いや考えが大切にされている」について肯定的な回答をした生徒は93%であった。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>常に「人を大切に思う」生徒の育成を念頭に、生徒理解を深め人権意識の向上を目指し、自分も仲間も、多様性を認め合いながら協力し合えるような学校の風土醸成に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自他を認める雰囲気づくりが進み、挑戦しやすい環境が整ってきたことで、学校行事や生徒会活動、また、日常の授業や学校生活等において、自主的・主体的に活動する生徒が増えている。</li> <li>○複数の特別支援コーディネーターでチームを組み支援や配慮を充実させたことが、保護者の安心感につながった。特別支援学級の生徒数・学級数が増加しているため、個に応じた環境づくりを、より充実させていきたい。</li> <li>○小学校や地域と連携して人権・同和教育を推進しているため、いじめや差別を許さないという感覚が育まれている。自分の言動を客観的に見る力、相手の立場や周りからの見え方を感じとる力をさらに高めていきたい。</li> <li>○相知町小中三校の連携や地域との連携により、学力向上の研究や教育活動の充実を推進することができた。連携や協力体制を継続し、地域や社会の変化に対応できるよう、情報収集に努め改善につなげていきたい。</li> </ul>
----------------	---